

理工学系 化学 コース 4年

参加者氏名 森下 和哉

指導教員所属氏名 野村 琴広

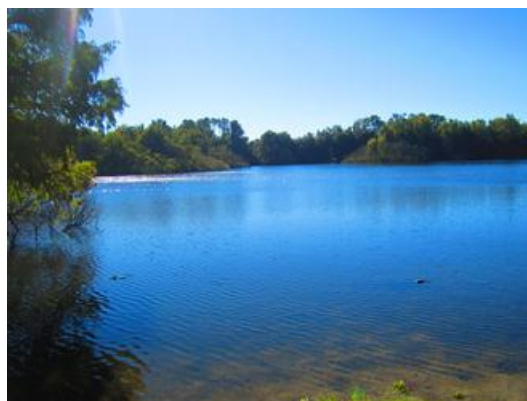
1	プログラム名	有機高機能材料の精密合成に関する国際共同研究（基礎学習）	
2	研修期間	2012年10月29日（月）～2012年11月17日（日）	
3	研修先	国名 米国	教育研究機関名 Department of Chemistry, University of Florida
4	内容報告	下記に記入のこと。（今回の研修等の成果を具体的にまとめて報告すること。2枚までにまとめること。適宜、写真、図を含めてよい。）	

**October 29 – November 14, 2012 フロリダ大学滞在**

フロリダに到着直後は、研究室の学生に大学内を案内して頂いた。フロリダ大学内の湖にはアリゲーターが生息し、緑豊かで広大な敷地が特徴的であった。2日目は化学科が所有する施設の案内と質量分析やNMR、X線結晶構造解析装置などの各種分析機器に係る研究者を紹介して頂き、最新の分析機器の説明を受けた。X線結晶構造解析装置の部屋にはX線の回折パターンをフロッピーディスクに保存していた時代の機器から最新の機器まで博物館の様に並べてあり、非常に興味深かった。その後は、セミナー・グループ報告会への参加や学生の実験・講義に参加し、さらには化学を専攻とする学生との英語でのコミュニケーション・ディスカッションを通じて知見を深め、視野を拡大することができた。英語でのコミュニケーションには大変苦労したが、何度も聞き返すことで大まかな内容は把握できるようになった。

週末には首都大学東京を卒業し、現在、フロリダ大学の大学院にご在学中の松浦まりこさんにご友人を紹介して頂くとともに、様々な観光地やイベントに連れて行って頂いた。

様々な人と心を通わせる中で、米国では基本的な生活の中でも自分から要求をし、行動する事が重要だということを学ぶ事ができた。この様なマインドがアメリカの大学のセミナーや報告会で活発に飛び交う質疑応答の一因になっているということに気付くことができた。



フロリダ大学内の湖



滞在先の研究室

※ 研修終了後、指導教員の確認を得てから、宮崎教務係長（miyazaki-naoko@jmj.tmu.ac.jp）にファイルで提出すること。（email address の @ の両側の空白はとる。）

参加者氏名 森下 和哉

John F. Kennedy Space Center (週末に訪問)



Wagener 先生と研究室の方々

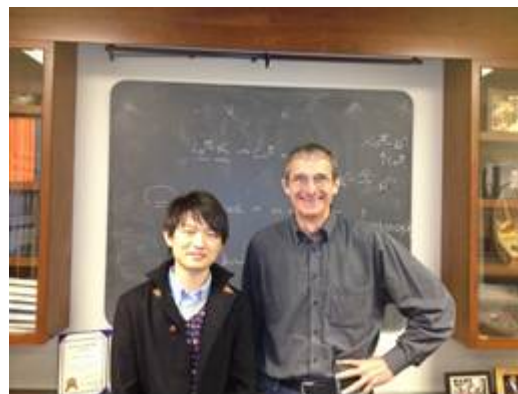
派遣先の研究室では、セミナーや報告会への参加に加えて、最終日には Wagener 先生や研究室の学生の前で、私のこれまでの研究成果を英語で発表する機会を頂き、先生や学生とのディスカッションを通じて研究分野への理解を深めた。決して流暢な英語とは言えないものであったが、いくつか質疑があったことから、自分の研究分野等のある程度英語で説明できたと考えている。以上、派遣先の研究室の学生や高分子を扱う他の研究室の学生とのディスカッション、セミナー、実験、及び講義の見学・参加などを通じ、別の角度で研究をみつめることができ、研究視野の拡大とともに、とても刺激的な経験をする事ができた。

#### November 16, 2012 マサチューセッツ工科大学訪問

フロリダからの帰路にマサチューセッツ工科大学を訪問し、オレフィンメタセシス触媒の開発により 2005 年にノーベル化学賞を受賞された Schrock 先生と面会し、グループ報告会に参加及び実験室を見学する機会を頂いた。報告会では一人の学生のデータに対して 1 時間以上にわたり先生や学生の質疑が飛び交い、成果を出すために全員で真剣に議論する様子が特徴的であった。報告会後には研究室の方々にお酒の席に誘って頂いて、Schrock 先生を囲んで研究室の方々と共に英語で楽しく会話をすることができた。研究施設も非常に充実しており、好きな時間帯に好きなだけ研究ができる様な設備が整っている印象を受けた。



マサチューセッツ工科大学



Schrock 先生との記念写真

Wagener 先生と Schrock 先生という化学界では著名な両先生との面会やディスカッションを通じ、世界で活躍する「研究者」としての姿勢を直に感じ、今後の自分の研究を進めるにあたっての非常に大きなモチベーションを得た。派遣先での生活を通じて、派遣先の人々と心を通わせ、自分の意志で行動し、異国の文化や習慣を学ぶ機会を得ることで、人間的に大きく成長できたのではないかと考えている。